



学校プールを
スケボー場に

香川 宏行（令和研究会）



問 市内4校の小学校の閉校により、校舎はもとよりプールも使用されていない。加えて、令和5年度から実施している民間スイミングスクールを活用した水泳授業により、来年度は4校のプールも使用されなくなる。使用されなくなったプールの活用策は考えているのか。

答 閉校した学校は、避難所などとしての行政ニーズや体育館の開放など、地域住民のニーズを踏まえ、基本的には民間の事業者による活用を検討しており、使用されなくなったプールについても事業者により様々な検討がされるものである。また、プールを利用してはいない学校については、利活用の方法など、今後、調査・研究していく。

問 アーバンスポーツを推進するため、使用されていないプールをスケボー場に活用してはどうか。

答 スケートボードをはじめとするアーバンスポーツは、オリンピックの新種目として正式に採用されるなど、注目されている競技の一つである。整備に当たっては、騒音など近隣への影響や利用者への安全対策など、設置場所や運営方法等について様々な角度から調査・研究が必要であり、他市の事例なども参考にしながら総合的に検討したい。

問 市民の皆さんから整備の要望はないのか。

答 中学生のほか、自治会長などからスケボーパークを開設してほしいという意見をいただいている。市としても新しいスポーツに対応できる場所が必要ではないかと感じており、市民ニーズに応えられる努力をしていきたい。



高齢者福祉について

岩崎 彰（一倫の会）



身近に住む単身高齢者が孤独死され、発見まで一週間を要した。高齢化の進展とともに単身世帯は増え、孤独死のリスクは増加が見込まれており、課題となっている。

問 地域安心ネットワーク協定の締結状況は。

答 個人宅を訪問するこの多い新聞店や配送業者など19事業者と締結している。事業者から情報提供があった場合は、継続的な見守りや各種福祉サービスの提供を行うこととしている。今後とも支援が行き届くよう協定事業者の拡大に取り組んでいく。

問 本市にはどのような見守りサービスがあるか。

答 ひとり暮らし高齢者見守りサービス事業や配食サービス事業などを行っている。

問 昨年7月1日からシルバー人材センターによる見守りサービスに変更に一週間の要した。高齢化の進展とともに単身世帯は増え、孤独死のリスクは増加が見込まれており、課題となっている。

問 地域安心ネットワーク協定の締結状況は。

答 民生委員、地域包括サポーター、地域包括支援センター職員等が集まり、高齢者の情報を共有し、支援を必要とする高齢者を支援機関につなげる会議を開催している。

問 人による見守り以外の取組は。

答 緊急通報システム事業を実施しており、令和5年度の利用件数は365件である。



安全で安心に暮らせる
行田市国土強靱化
地域計画について

小林 修（令和研究会）



問 本市が管理する昭和55年以前の古い基準で建設された橋りょうは、大地震により大きな被害が発生することが予想されるため、安全で安心に利用できるよう耐震補強を実施すべきである。特に緊急輸送路指定の警察署、消防署が位置する南大通り線の吾妻橋は、早急に実施すべきではないか。

答 吾妻橋は平成27年に長寿命化修繕を実施したが、その後、緊急輸送路に指定されたため、耐震補強が必要であると認識しており、来年度策定する橋梁長寿命化修繕計画に基づき、国の補助金などを活用し取り組みたい。

問 経年劣化の対応のため、計画的な修繕や更新を進める橋梁長寿命化修繕計画の点検結果から、緊急措置段階として、通行止めになっている4橋の今後の対応は。

答 現在、通行止めの橋りょうは、大字和田地内、大字長野地内、長野2丁目地内及び樋上地内の4橋で、架け換えや修繕、撤去などが考えられるが、今後想定される利用状況や費用対効果を踏まえ、方向性を示した上で地元自治会へ説明したい。

問 水城公園から行田中学校の間にある、準用河川忍沼川と忍川の合流部で、内水排水もでき、バツクウォーターにも対応する逆流防止堰の設置の必要性と設置時期は。

答 逆流防止堰の設置については、忍川の河道幅や下忍調節池の整備後の状況を踏まえた浸水シミュレーションを来年度実施し、必要性を検証したい。

【その他の主な質問】
○常盤通佐間線街路事業
○行田市駅の再整備及び利便性の向上